



木曾三川と伊勢湾に面し、古く創業する。から交通の要衝や物資の集積地として栄えた桑名市。中世は港町、江戸時代は東海道の宿場町として、東西南北から人々が行き交い、にぎわいを見せていた。そんな「商人の町」に1926年(大正15年)、「た商人に行き着く」(伊藤明人社長)というほど、同社は悠久の歴史を持つ。

力キトー(本社桑名市中央町)は、時は流れ、大正から昭和へと大きく時代が移り変わりを前後にじて、事業家だった伊藤社長の祖父、庄吉氏は、江戸時代から続く納屋才業とする「かき藤」を創業する。鶏卵料亭の経営に加え、天然水の貯蔵卸や鶏卵問屋を生み、おもに大阪や京都へ出荷していた。

3代目社長伊藤明人さんが社は現在、「省エネ」を柱に据えた空調などの設計・施工、土木・建築業、保守・点検事業を行っています。「すぐやる、今やる、私がやる」は、わが社の行動指針の一つです。

そこで末永くやつらわれたのは、先代から変わらない、お客様の要望にきちんと向き合い満足していただけるサービスを提供することで、信用を築き上げるビジネススタイルだと思っています。

時代は変化しても、このようないい精神は変わることなく、今後も社員一同、取り組んでまいります。



右奥に見えるのが「かき藤」の社名由来である「かき船」。

かき藤は終戦後、三重県北勢地方を対象にした燃料問屋と水卸事業に参入。庄吉氏の父・隆平氏も

## 省エネシステムを開発

同時に「環境創造企業」を掲げ、

経済産業省や千葉大学などと産学官連携を図りながら新事業の研究開発に乗り出した。

その中で、顧客の電力などの消費エネルギーをきめ細かく診断して、より的確な省エネ提案ができるシステムを開発。省エネ設備の設計施工から保守・点検までを一貫して請け負っている。現在、當業エリアは、東海地方にとどまらず、関東や東北地方にも進出し、顧客満足度の高いサービスを提供している。

数百年前の「納屋才」から続く「商い」のDNAを受け継ぐ一方、常に次代を見据えた経営で企業の持続的発展に挑み続ける。



作十郎の描いた設計図

とされて言っていた。多宝塔は高さ十五尺があり、寄棟造り・瓦葺きの二層建て。堂内には一切経金巻と作十郎の手による觀音像百八体が納められた。仏像まで彫ってしまうのも作十郎のすごいところで、仏師も兼ねたまれに見る彌

平成十九年に本堂はじめ山門、位牌堂、庫裏などを「新したが、ここで注目したいのはやや離れたところに建つ多宝塔である。寺は天保十一年(一八四〇)から約十年かけ、近くの鎌ヶ洞から移転してきた。多宝塔はその建て替えを記念して建立されたもので、落成は万延元年(一八六〇)の秋、棟梁は作十郎である。

寺には「野村季頭國符譲書」と書かれた十分の一の設計図があった。大工は建築にたたき込んで一気に彫ってゆく。この図面や下絵が書けなければ、棟梁になれない。



□ 224

# 青果海産物から空調へ 時代に合わせて多角化

力キトー 一九二六年創業 桑名市



現在の力キトー本社

